

「サンマの喪失」、「ス漬けの生活」とは、いったい何のことだかわかりますか？

これは、現代の子どもの生活環境（特に遊び環境に関してのこと）を表しています。

「サンマ」とは、漢字にすると「三間」と書きます。子ども達の遊び環境から、「空間」「時間」そして「仲間」が無くなっているということ。

そして、「ス漬け」とは、今の子ども達は3つの「ス」にどっぷり漬かった生活を送っていることを表しています。

一つ目の「ス」は、「スクリーン」・・・テレビゲームの出現以来、最近の子どもたちはスマホ、タブレット端末といった「スクリーン」を見つめる時間が多くなっていること。

二つ目の「ス」は、「スクール」・・・小さな時から習い事（「スクール」）通い。首都圏の1～6歳までの48.6%、6歳児では82.7%が習い事に通っているという調査もあるそうです。

そして、三つ目の「ス」は、「スポーツ」・・・昔は、近所の子ども達と異年齢で戸外を駆けまわって遊んでいましたが、現代の子どもたちが体を動かす機会といえは、親が月謝を払い、運動・スポーツを習うキッズスポーツ産業に取って代わられているというのです。（確かに、うちの園では外部講師をお願いしたりしていませんが、他園では、外部派遣講師を呼んで、園でサッカー教室、体操教室など運動指導を行っている園も増えています。）

こうした子どもの生活（遊び）環境の変化によって、子どもたちの身体（運動）の「育ちそびれ」がもたらされています。報道等でも、よく幼児の運動能力が近年大きく低下しているといわれていますが、タイムや距離などの運動発達を量的に評価する運動能力だけでなく、運動の「ぎこちなさ」といった質的な発達でも問題が指摘されているそうです。最近の5歳児の動きの出来栄は、20年以上前の3歳児と同じレベルといった調査結果もあるそうです。

さらに、以下のような興味深い調査もあります。

- ①運動指導を行っていない園の方が、行っている園よりも運動能力の得点が高い
- ②積極的に運動指導をしている、また、一斉指導をしている度合いが高いほど得点が高い
- ③子どもが運動の種類やルールを決める程度が高い園ほど得点が高い

運動教室をやっている園の子どもたちより、自由遊びをたくさんしている園の子どもたちの方が運動能力が高いのです。

この結果は、意外に感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、子ども達が遊ぶ姿をよく見ている私たちからすれば、当然そうだろうなと思います。本来、遊びは、やらされるものではなく、自分の意志で「やりたい！」「たのしい！」「もっと！」と意欲的に行うものです。自分の今持っている能力を自分自身の力で伸ばしていこうとしている活動のようにも感じられます。楽しいから、休む間を惜しんで身体を動かすし、うまくなりたから工夫したりするし、外部講師から特定の技術を教えてもらって技術的な面でスムーズに出来るようになることはあるかもしれませんが、基礎的な体力や身のこなしは、やはり、好きなことを寸暇を惜しんで楽しみながらやっていることにはかなわないだろうなと思います。

わが園では「夢中になって遊んでいたら、いつの間にか いろんな力が身に付いていた！」を理想としていますが、やっぱりこれで良かったんだなと感じています。

参考文献：

九州合研常任委員会 編 『ほいくっておもしろい！ ワクワドキドキ身体づくり』 かもがわ出版
（ 第2章 子どもを発達をふまえた身体づくりをめざして 鐘ヶ江淳一 ）